

大学で学んだことを仕事に

Y大学：農学部・生物資源環境科学科・3年

期間：平成30年8月17日～30日（10日間）

私は、10日間Y連合会でインターンシップをさせていただいた。その中で実際に行った業務として、岩国市で発生した災害の現地踏査、パソコンのソフトであるAUTOCADを用いた災害設計、復旧工事積算等災害関連の業務、また鳥獣害撃退装置設置、用水計画作成作業などの業務を体験した。

大学では、測量学や水理学の講義を受講しており、マニング式などの公式等は学んだが、実際にどの場面で用いることがあるだろうかと疑問に思っていた。今回の実習で用水計画の作成時に用いることが分かった。また、大学では導入の部分しか学べないことが多く、実際に学んだことがどのように使われているのかが疑問に思っている部分が多かったが、実習後には疑問が少し解消された。

大学では研究室に配属され、普通作の栽培系の研究を始めるにあたって、普及しつつある地下水位制御システムであるFOEAS原理等も学ぶことができた。

私は、インターンシップ体験前は、Y連合会という組織は、圃場整備やFOEASなどの農業土木専門と考えていたが、今回の体験で農村整備全般の事業の計画、設計、工事の施工管理等がされていることが分かった。特に農村地域のため池の整備計画や改修工事にかかる実施設計、農業集落排水施設の整備や保全支援、再生可能エネルギーの導入支援、各集落での農地や水路・頭首工等の保全活動の多面的機能支払交付金制度の支援、災害発生時の災害復旧支援など、各土地改良区などの会員へのサービスを目的とした組織であることが学べた。私も、実家が農家で農地や水路の簡単な補修等は行ってきたが、今回の体験で職員の方に色々と質問をして、農地や水路等の改修方法について詳しく教えていただき自分の能力アップにつながった。また実習期間中には職員の方で農家の方がいらして、休憩時には農業の話などで話が盛り上がる場面もあり、最初は緊張した場面もあったが、だんだんとリラックスすることができた。

実際に10日間、職員の方々と同じ時間に出社して同じ休み時間を体験することで、これから社会に出て働くということがどれだけ大変であるかということが学べた。特にパソコンを使った業務が大半をどの職種でも占めると考えられ、実際に土地改良事業団体連合会でも設計書作成などはパソコンのソフトを用いることから、パソコンの代表的なソフトの使い方やデータのまとめ方等を大学在学中に学んでおくべきだと感じた。また、大学で学んだことが将来の仕事に関係したり役立つことがあるため、大学で学んだことをテストだけで終わらせるのではなく、今後も生かせるようにしておくことが必要であると感じた。

私は、山口県内の農業関係の職に就きたいと考えており、今回のインターンシップは大変大きなものを得ることができ、今後の就職活動にも大変参考になるものとなった。特に、職員の方に実際に働く上でのやりがいなどをお聞きすることができ、大変おおきなものを得ることができた。今回のインターンシップでは、大学の講義の関係で10日間という長い実習にもかかわらず、そして今年の西日本豪雨の災害で大変お忙しい中でいろいろな体験や現場等での実習をさせていただき、Y連合会の皆さんに大変丁寧に指導していただいた。大変ありがとうございました。

実際の現場を見学して学んだこと

Y大学：工学部・社会建設工学科・3年

期間：平成29年8月28日～9月1日（5日間）

H建設株式会社という建設会社に5日間、インターンシップに参加した。インターンシップの概要としては、5日間でH建設株式会社という会社について、建設業について、また実際に現場を見学し、機械の説明や舗装工事の仕組みについて学ぶことが出来た。

今回、切削オーバーレイ工事という道路の舗装の現場に行った。工程としては、既存のアスファルトを剥ぎ、剥いだ後の道路を掃除して、道路とアスファルトを引っ付けるための乳剤という接着剤をまき、アスファルトを2層に分けて敷き詰めるという作業だった。アスファルトの温度は、アスコンから運ばれて来る時点で、170℃ほどあり敷き詰めるときでも、150～160℃はある。

アスファルトの温度とまた、外での作業ということで太陽との日差しもあり、とても暑い中の作業となっていた為にとっても大変な現場であった。一番過酷な現場と言われているところを見学することができた。見学するだけでもとても暑く、体力勝負なところがあり、女性にはつらい現場であると思った。建設業界において女性も少しずつ進出していて、女性でも就きやすくなっているが、まだトイレなどの問題はあり、今回の現場でもトイレが近くにないため、そういった所でも女性にとっては大変な仕事であることが分かった。

現場監督というのは実際に作業するわけではなく、作業する技術員の人に指示したり、管理のための作業中の写真を撮ったり、アスファルトがどれだけ必要でそのためにはダンプが何台いるかを、アスコンにお願いしたりする仕事をしていた。

作業効率とお金のバランスを考えながらしないとイケなく、その中で失敗があればもちろん監督の責任であるため重い立場である上、また年上の男性の技術員の人に意見しないとイケないこともあり難しい立場であることが分かった。

体験前と体験後で変わったことは、現場の人とのコミュニケーションが大切であることを再認識することが出来た。監督と技術員とのコミュニケーションが取れていないと、作業が上手くいかないために大切であると分かった。

また、実際に現場に行ってみて、初めは特に自分から自主的に動くことが出来ず、ただ現場を見ておくことが多く、監督の人から教えてもらい動くことしかできなかった。実際に働いている人はもちろん忙しくしていて、インターンシップ生にかまっている暇もないために、自分から出来ることはなにか、疑問に思ったことは質問にいかないといけないことを学ぶことが出来た。

これは、就職してからも大切になってくるため、今回で学ぶことが出来て良かったと思う。

今回のインターンシップで建設業の中でも、外に出て現場で仕事することを体験することが出来、どういう仕事をするのか、どれほど大変なのかを少しではあると思うが学ぶことが出来た。

今後の抱負としては、他の建設業についても調べて自分が興味をもてる仕事を探し、今回のインターンシップの経験をいかして就職活動に役立てていきたい。

5日間お世話になりました、有難うございました。

社会人として必要なもの

Y大学：工学部・社会建設工学科・3年

期間：平成28年8月22日～26日（5日間）

私は、コンサルタント会社でインターンシップをさせて頂いた。土木関係のコンサルタントは、主に国、県などの公共機関から発注を受け、土地の調査、構造物の設計などの業務を行っている。

私は、インターンシップで研修を受けるに当たって、大学で学んでいることは実際に仕事をする際にどう生かされていくかということを知りたいと思っていた。私は、大学で土木を学んでおり、授業では土や水による圧力の計算など基礎的なことから、測量機器の取り扱い方など実務的なことまで行っている。学校で勉強していることが何の役に立つのかなどということが話題になることがあるが、私は、学んだ知識は必ず何らかの役に立つし、現象や仕組みの理解の仕方、物事の調べ方やまとめ方など別のことを行う際に利用できることは多いと考えている。そこで、実際の業務を少しでも経験することでそのことが多少でも実感できればと思い研修に臨んだ。

インターンシップでは、研修先の会社の業務内容について学ぶため、日ごとに別の部署の方に付いて行き、プロジェクトについての説明を受けたり、実際の作業現場を見学させて頂いたりした。私が全研修を終えて強く感じたのは、社会では様々なスキルが求められるということである。

他の人たちと連携して作業を行う時、自分の中にはトップにまとめる人がいて、その下で全員が同じ作業を行うというイメージがあった。学校で行う授業などはこうであると思う。しかし、実際はそうではなく、各人が別の作業を行っていながらそれをつなぎ合わせ一つのものにするといった方が、連携作業を行う上では、正しいイメージのように思えてきた。この時、個人に求められるのは専門的なスキルと他とのコミュニケーション能力である。

研修中、PCでの設計などはもちろんのこと、試験室での実験や現場での踏査など作業を一人で行うことが多かった。例え、同じ場にいたとしても、各人の担当していることは異なることが多く、専門的な知識や機器の操作など、個人個人に求められることは多いと感じた。

また一方では、仕事の依頼を受ける、調査を行う、設計を行う、という一連の流れは存在し、これらを連携して確実に行うためには、物事を正しく伝える必要がある。日常生活のコミュニケーションと仕事でのそれには、いくつか重要な違いがあると思う。一つは、仕事では専門的な内容を含むという点である。現場の作業で重要なことの一つに地元への配慮があった。専門的な内容は、それに詳しくない人には説明が難しい。技術のある人には、それを分かりやすく伝える能力が求められると思う。

加えて、伝わらなかったからといって、あいまいなままでは済まされないという点である。これはお金をもらって仕事をし、正しく評価してもらうために重要であると思った。

結論として、大学で学ぶことは全く畑違いの職種につかない限り役に立つと思う。実務的な内容は、例え、自分が実際の作業を行わなくても知っていることで円滑に会話が出来るとし、基礎的な内容もコンピュータがすべて計算してくれる場合も理解していることで様々な事態に対応出来るのではないかと考える。

今回のインターンシップを通じ、社会人として、専門的なスキルやコミュニケーション能力が求められているということを実感することが出来、とても有意義であった。ありがとうございました。

お客様を大切に、長いお付き合いをする重要性

Y大学：経済学部・経営学科・3年

期間：平成27年8月22日～28日（6日間）

私は、このインターンシップを通じて、お客様を大切にすることの重要性を学びました。インターンシップ研修の1日目と2日目は本社で地元の方やOBさんを対象としたお祭りが開かれていました。研修内容はそのお手伝いをするというものでした。大勢のお客様が来場されていて、地元で愛されている企業なのだと感じました。また、社員の方々のお客様へのサービスや接し方から、お客様を大事にする姿勢が伝わってきました。社員の方が「うちのような地元密着型の住宅企業は、お客さんに家を引き渡したその後の付き合いも重要になる。大手の企業はアフターケアがあまりないところもあるけど、うちはそういうのも大切にしている。そうやっている内にどんどん評判が広がっていくんだよ」と話してくださり、それが印象に残っています。

3日目は、山口県に大型の台風が接近しているということで、緊急にその対策が行われることになりました。会社のある防府市では、過去に台風による大きな土砂災害が発生しており、それを受けて、対策を強化し、お客様の家に何かあった時すぐ駆けつけられるようにするとのことでした。私がお手伝いしたのは、過去のお客様のデータを整理することでした。お客様の居住地の地図をプリントアウトし、その地域ごとに細かく分け名簿を作成します。こうすることで停電時にパソコンなどが使えなくなっても、連絡のあったお客様の居住地をすぐ割り出すことができ、その後迅速に対応できるようになります。名簿の作成時に、社員の方が「こうやって台風が近づくと、毎回お客様に注意してください、何かあったら電話してくださいとの呼びかけの電話をして、台風が去った後も、お変わりはないですかと電話をするんです」とおっしゃっていて、驚きました。整理した顧客の数は膨大で、その一軒一軒に電話をかけるとなると、相当な時間がかかると思われまます。その労力を惜しまないところにお客様に対する真摯な姿勢を感じました。

それ以降はインテリアコーディネートに関する仕事を体験させていただいたり、モデルルームの見学をさせていただいたりしました。そこでも社員の方々の丁寧な説明を聞き、親しみやすい人柄で接していただきました。どんなに良い商品でも売り手の態度が良くなかったら買う気は起きません。また、かしこまりすぎても逆に壁を感じてしまうかもしれません。こういったほどよい接し方によってお客様との信頼関係の構築が成り立っているのかもしれないと考えました。

他の業界でもそうですが特に住宅の業界では、ほとんどのお客様が一生に一度しか買わない家を提供するだけあって、お客様との関わりは非常に重要になります。この会社は特にそういったものを大切にしていると感じました。以前までは良い商品を提供することが大切と考えていましたが、それだけではなく、お客様を何よりも大切に、長いお付き合いを構築していくことが重要だと考えるようになりました。

今後就職活動をする際にも、自社の利益を重視する企業ではなく、相手を大切にすることの企業に就職したいと考えるようになりました。また、自分が働くうえでも、常に相手を思いやり、相手の目線に立った仕事をするようにしたいと考えるようになりました。

設計事務所での体験

インターンシップを通しての視野

K大学：産業理工学部・建築・デザイン学科・2年

期間：平成26年8月18日～22日（5日間）

今回、初めてのインターンシップということで不安もありましたが、社員の方々が優しく接してくださり、また、小さな疑問も丁寧に指導してくださり大変有意義な5日間を過ごすことができました。ちょうど仕事が立て込んでいる時期だったのですが、そんな忙しい中私を迎え入れてくださりとても感謝しています。社員の方々とあまりゆっくり話す機会はなかったのですが、互いをサポートし合いながら仕事をこなしていく様子を見て、仕事をスムーズに進めるためにはコミュニケーション能力が大事であると改めて感じることができました。

今回はCADを使った図面作成や、これまでに自社で設計された建物の見学など幅広く体験させていただきました。CADは大学で習っていた基本だけでなく、かなり上級編な機能も使った図面作成で少し手間取ったのですが、就職してからも役立つスキルを身につける良い機会になりました。他にも、今まで設計してきた建物の情報などのファイル整理をしたのですが、図面や資料などにその設計での良かった点や悪かった点などがたくさん書き込まれていて、前回の失敗も活かして、いい建物を建てようという企業の努力が詰まっていました。また、建物の見学もとても参考になりました。一般住宅から福祉施設などと幅広く設計に関わっており、自分の視野の狭さについて考えるきっかけとなりました。

私は母が小さな建築事務所を営んでおり基本的に一般住宅の設計をしていたので、これまで一般住宅以外の建物を視野に入れていなかったのですが、実際に福祉施設などの大規模な建物を見学し、どのようなところに重点を置いたのか、どのような考えをもってそういった設計をしたのかなどのお話を社長自ら話していただき、私の建築に対しての視野が広がったように感じました。

インターンシップ最終日は社長が昼食に弁当を頼んでくださり、社員の方々とゆっくり話すことができました。色々な建物の話や今まで体験してきた面白い体験談など、ためになりとても楽しかったです。インターンシップが始まったころに社長が、うちの社員は全員違ったタイプで構成され、一人一人が大切なピースなのだと話されていたのですが、今回社員の方々と話をして本当に一人一人が個性を持っていると感じました。それぞれに得意分野があり、お互いの足りないところを補うバランスの取れたチームといった感じで、とてもうらやましく思いました。職場によってそれぞれの強みがあると社長が話されていましたが、この会社の強みはこの強い結束力なのではないかと思いました。今後、他の建築事務所を見学する機会があれば、その強みや特徴を探してみようと思います。そして、いつか自分が一つのピースとして必要とされる自分に合った職場を見つけたいです。

このインターンシップを通して、私の将来にはまだまだ多くの可能性があるということが分かったことはとても大きな意識の変化だったと思います。将来に対しての視野が広がり、社会人としてのマナーや学生生活と違った空気を感じるようになりました。この貴重な体験が、今後何らかのプラスになればいいと思います。